



2018夏  
vol.29

TAKE FREE  
ご自由に  
お持ち下さい



(夏の保津川下り)

理念

私たちは、高い技術と温かい心を持って、医療・介護を提供し、地域社会の発展に貢献します

基本方針

1. 患者様中心の良質な医療と介護を提供します (良質な医療と介護)
1. 医療・介護の安全に最大の注意を払います (医療・介護の安全)
1. 地域の医療機関や介護サービス機関と連携し、地域医療・介護の充実に貢献します (地域連携)
1. 全職員は常に最新の医療・介護の研鑽に努めます (研鑽)

糖尿病教室のお知らせ

実施日 平成30年 6月22日 金曜日  
場所 亀岡病院 5階 会議室 時間 14:00~

参加  
無料

内容	担当者
● 食後高血糖から身体を守る糖尿病治療	大槻 理事長
● ワンポイント講座	
● 血糖コントロール・夏に向けての注意点	足立 栄養科長
● 糖尿病神経障害等の検査の話	俣野 検査科長
● 糖尿病予防のための実践トレーニング	石井 理学療法士

4月からの 当院の救急体制についてのお知らせ

平成30年4月1日より、医療法人亀岡病院は、「**地域のかかりつけ病院**」として、救急体制を充実させました。

平成30年4月1日より、かかりつけの患者様が、急に状態が悪くなり、救急車等で当院に来院される場合、24時間、365日、診察ができるように、救急の体制を整えました。楠岡院長代行が、救急責任医師として、細川院長(循環器専門医)、森神経内科部長(神経内科専門医、特に脳卒中等の脳血管疾患の担当)と共に、迅速に診察と治療を行います。土曜・日曜・祝祭日でも、常勤医師や当直医師が、緊急受診をお受けして診察いたします。



■ 亀岡病院救急対応チーム

外来看護師、放射線科技師なども、救急対応できるように勤務シフトを整えました。入院が必要な時は、スムーズに入院いただける様に、地域連携室や入退院支援チームを中心として、常時、外来と病棟が連携を取り合っております。外来で



診察した結果、さらに高度な医療が必要であると判断した場合は、近隣の中核病院や京都市内の大学病院などに、迅速に紹介できるように、常日頃から連携を強化しております。

患者様の状態が悪くなったり、ご自身が困られたりした時は、まず亀岡病院に連絡してください。救急車で搬送される場合は救急隊員の方に、「亀岡病院がかかりつけなので、亀岡病院に連れて行って欲しい」とお伝え下さい。亀岡病院がかかりつけの患者様は、原則、当院へ搬送いただくように、救急隊にお願いしてあります。必要な時は、すぐに入院もできるように手配いたします。ただ万が一、空ベッドがない場合は、責任をもって近隣の病院に受け入れをお願いします。

患者様に、これまで以上に信頼いただける「**地域のかかりつけ病院**」となるよう、職員一同、日々、努力、研鑽に努めたいと考えております。



■ 救急室



■ 救急入口

④ 外来担当医表 (平成30年6月1日現在)

	月	火	水	木	金	土	
内科	① 診	循環器・内科 細川	呼吸器・内科 山崎	循環器・内科 細川	呼吸器・内科 山崎	呼吸器・内科 山崎	糖尿病・内科 牧① 総合内科 大川②④⑤
	② 診	糖尿病・循環器 大槻克一	糖尿病・循環器 大槻克一		総合内科 楠岡	糖尿病・循環器 大槻克一	肝臓 上田②④ 糖尿病・循環器 大槻克一③
	③ 診	循環器・内科 高橋	糖尿病・内科 牧	総合内科 大川	糖尿病・内科 牧	もの忘れ・脳神経 森	
	⑤ 診	総合内科 大川	もの忘れ・脳神経 森		膠原病・腎臓 福島	総合内科 大川	
	⑦ 診		消化器・内科 中島	もの忘れ・脳神経 森			
	夜間 (17:00-19:00)	呼吸器・内科 山崎	もの忘れ・脳神経 森	総合内科 大川	糖尿病・内科 牧	消化器・内科 布居	
	午前 (9:00-12:00)	元津	元津	元津	元津	元津	
夜間 (17:00-19:00)	元津			元津			
脳神経外科	午前 (9:00-12:00)			大山			
皮膚科	夜間 (17:00-19:00)					府立医大	
泌尿器科	午前 (9:00-11:30)			藤井			
眼科	午後 (13:30-16:00)				府立医大	担当医	
禁煙外来	午後 (12:00-13:00)	細川		細川			
もの忘れ外来	午前 (10:30-12:00)					森	
腎不全外来	午後 (13:30-15:30)			藤井			

※数字①②などは、①：第1週 ②：第2週を意味します。

- 内科医師の主な専門分野を表記していますが、一般的な内科疾患はいずれの医師でも対応いたします。(赤字は女性医師)
- 日・祝・祭日および4月17日、8月14日、12月30日～1月3日は全科休診いたします。
- 第3土曜午前に糖尿病・循環器外来を開設いたします。



医療法人 亀岡病院 TEL (0771) 22-0341(代) FAX (0771) 22-4305  
〒621-0815 京都府亀岡市古世町3丁目21番1号 E-mail kamekame@oak.ocn.ne.jp

診療科目 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、リウマチ科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、泌尿器科、皮膚科、眼科、放射線科

亀岡病院 検索 http://www.kameokahp.com

# 緊急時受入れ体制の整備と 入退院支援チームの活動



いろいろな場面で地域包括ケアシステムという言葉が聞かれた方も多いかと思いますが。厚生労働省は、「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく人生の最期まで生活し続けることができるように住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み」として地域包括ケアシステムの構築を進めています。

人口構成の変化や、社会保障費の伸びなどを背景にした厳しい財政状況のなかで、亀岡の地で60年以上医療や看護・介護を提供してきた亀岡病院はどのような役割を果たすべきなのでしょう。亀岡病院が目指してきた、地域社会の発展に貢献するという理念を基に、地域のかかりつけ病院として、地域包括ケアシステム構築のため中心的な役割を果たすということが期待されているのではないのでしょうか。

これまでは夜間にかかりつけの患者様から受診の依頼があっても、速やかに検査ができないことや、人員の不足などから十分な対応ができないため、他の救急病院を受診していただくこともありました。しかし、平成30年4月からは、夜間も血液検査やレントゲン検査ができるように体制を整えました。診察の結果、必要であれば入院もできるように、空きベッドの確保にも努めています。また、平日の9時から17時までであれば、軽症の一般救急の患者様も受け入れるように、体制を整えました。

さらに、地域連携室に入退院支援チームを作りました。

病気で入院しても、住み慣れた地域へ帰り継続して生活していただけるように、チームで入院時から支援します。入退院支援チームは、入院が決まったら入院オリエンテーション、医療・介護サービスの利用状況などの情報収集、服薬中の薬剤確認、転倒や褥瘡などリスク評価を行って支援計画を作成します。そうすることで、入院生活のことやどのような治療過程を経るのかをイメージした上で入院に臨んでいただけます。また、日常生活動作の評価、栄養状態の評価を行い、入院したことで運動機能が低下することを予防します。退院へ向けても、必要であればご自宅へ出向き、日常生活に支障がないか判断し、医療・介護サービスの手配なども行います。当法人には多くの居宅サービス事業所がありますので、病気の治療で外来通院しながらでも住み慣れた自宅で色々なサービスを利用して生活することが可能となります。皆様が、住み慣れた地域で最期まで生活ができるように「地域のかかりつけ病院」としてお手伝いしていきたいと思っています。



## 「病院機能評価」の認定を受けました。

主たる機能 慢性期病院 Long-term Care Hospital



当院は2017年11月に、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、同機構が定める機能種別「慢性期病院」(3rdG: Ver.1.1)に基づく認定基準に達しているとの評価を頂き、2018年3月に認定医療機関となりました。

今後におきましても、医療の質の向上を図るために、職員一同が一層努力してまいりますので皆様におかれてはご指導の程宜しくお願い申し上げます。

## 第3回 亀岡病院 公開健康講座を開催しました



開会の挨拶 理事長 大槻 克一

亀岡病院は、地域に開かれた病院として、皆様に情報発信をするため平成27年度から公開健康講座を開催しています。今回は、皆様に元気で長生きしていただきたいという思いから「すこやかに生きる」というテーマを掲げ、平成30年3月25日(日曜日)にガレリアかめおかにて講演会を開催しました。当日は、170名余りの多くの皆様にご参加いただき、最後まで熱心に講演を聴いていただきました。また、講演会場となりの特設コーナーでは、血糖値・ヘモグロビンA1c測定、血管年齢・骨年齢・脳年齢測定、栄養相談および介護・福祉機器の展示などを行い、たいへんご好評をいただきました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



閉会の挨拶 会長 大槻 稔司

### 基調講演 1

健康で長生きするためには  
どんな食事がいいの？



亀岡病院栄養科科長  
足立 和代 管理栄養士

これを食べたら大丈夫という食べ物の特効薬は存在しないので、日々の食生活こそが重要であり、健康寿命を延ばすためにいいと考えられる毎日の食事内容の確認ポイントについてお話をしました。

### 基調講演 2

たかが頻尿!されど頻尿!  
すこやかな毎日を過ごすための  
おしっこ話



亀岡病院泌尿器科部長・透析センター長  
藤井 秀岳 医師

頻尿は、「日中の尿回数が8回以上」、夜間頻尿は、「就寝中の尿回数が1回以上」と定義されています。「生活の質」を低下させてしまう頻尿の原因となる前立腺や膀胱の病気について解説しました。

### 特別講演 睡眠は、私たちの健康に、 どのように影響を及ぼすか



滋賀医科大学  
睡眠行動医学講座特任教授・  
睡眠センター長  
角谷 寛 医師

日本は先進国の中でも睡眠時間が短いため、「睡眠負債」状態にある人が非常に多く、なかでも京都府は最も早起きで、15番目に睡眠時間が短い都道府県であるとの現状のお話から、「睡眠負債」は眠気だけではなく、糖尿病・高血圧・肥満などの生活習慣病、さらには癌や認知症にも悪影響を及ぼす可能性があるという最近のトピックスについて詳しく説明していただきました。

## 地産地消の給食づくり

亀岡病院と老人保健施設はたごまちの給食では、地元の食材を使用することで、地元の農業にも貢献できる「地産地消」に取り組んでいます。使用するお米は全て亀岡産コシヒカリを使用し、患者様・利用者様にも「ごはんが美味しい」と好評を頂いています。

また、老人保健施設はたごまちでは、亀岡産の旬の野菜を使用した献立を毎月取り入れています。味や香りの良い地元の新鮮な野菜で、少しでも季節を感じて食事を楽しんでいただけるようなメニューを考えています。4月は朝掘りの竹の子で「竹の子ご飯」を実施しました。5月はエンドウ豆で「豆ご飯」を予定しています。今後も、美味しくて地元にも優しい食事の提供を続けていきたいと思っています。